基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン カンサイガイコクゴダイガク 学校法人 関西外国語大学								
フリガナ大学の名称	カンサイガイコクゴダイガク 関西外国語大学 (Kansai Gaidai University)								
大学本部の位置	大阪府枚方市中宮東之町16番1号								
大学の目的	建学の理念に則り、公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学の教授研究を通して、国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	高度で実践的な英語運用能力を獲得したうえ、日本語・日本語教育および日本文化・社会にかかる専門的知識、ならびに豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を併せ持ち、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	外国語学部 (College of Foreign Studies)	年	人	年次人	人	学士 (国際日本)	年 月 第 年次	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	
	国際日本学科 (School of Japan Studies and Global Communication)	4	200	-	800		令和6年4月 第1年次		
計		200	-	800					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>令和5年12月 収容定員の変更に係る学則変更届出予定</p> <p>外国語学部</p> <p>英米語学科〔定員減〕 (△135) (令和6年4月)</p> <p>英米語学科〔3年次編入学定員減〕 (△100) (令和6年4月)</p> <p>スペイン語学科〔3年次編入学定員減〕 (△5) (令和6年4月)</p> <p>英語国際学部</p> <p>英語国際学科〔3年次編入学定員減〕 (△25) (令和6年4月)</p> <p>令和5年4月 短期大学の学科設置届出予定</p> <p>未来キャリア英語学科 (150)</p> <p>令和5年12月 収容定員の変更に係る学則変更届出予定</p> <p>短期大学部</p> <p>英米語学科〔定員減〕 (△250) (令和6年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	外国語学部 国際日本学科	51科目	46科目	22科目	119科目	124単位			
概教員組織要の	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	助手
				人	人	人	人	人	人
新設分	外国語学部 国際日本学科			5 (5)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	16 (16)	0 (0)
	計			5 (5)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	16 (16)	0 (0)

教員組織の概要	既設	外国語学部 英米語学科	56 (56)	38 (38)	18 (18)	7 (7)	119 (119)	0 (0)	146 (159)	
		スペイン語学科	12 (12)	7 (7)	5 (5)	2 (2)	26 (26)	0 (0)	27 (27)	
		英語・デジタルコミュニケーション学科	7 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	59 (45)	
		英語国際学部 英語国際学科	21 (21)	20 (20)	5 (5)	5 (5)	51 (51)	0 (0)	49 (49)	
		英語キャリア学部 英語キャリア学科	7 (7)	5 (5)	9 (9)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	27 (27)	
		英語キャリア学科小学校教員コース	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	
		国際共生学部 国際共生学科	7 (7)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	13 (13)	
		計	118 (118)	79 (79)	45 (45)	14 (14)	256 (256)	0 (0)	— (—)	
		合計	123 (123)	83 (83)	51 (51)	15 (15)	272 (272)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	職員については、併設短期大学部と共通					
	事務職員	153 (153)	29 (29)	182 (182)						
	技術職員	0 (0)	15 (15)	15 (15)						
	図書館専門職員	8 (8)	18 (18)	26 (26)						
	その他の職員	0 (0)	143 (143)	143 (143)						
計	161 (161)	205 (205)	366 (366)							
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	中宮キャンパス全体 共用は関西外国語大学短期大学部（必要面積14,000㎡）				
	校舎敷地	0㎡	160822.61㎡	0㎡	160822.61㎡					
	運動場用地	0㎡	71965.08㎡	0㎡	71965.08㎡					
	小計	0㎡	232787.69㎡	0㎡	232787.69㎡					
	その他	0㎡	8733.22㎡	0㎡	8733.22㎡					
合計	0㎡	474308.60㎡	0㎡	474308.60㎡						
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	中宮キャンパス全体 共用は関西外国語大学短期大学部（必要面積6,850㎡）					
	21,237.34㎡ (21,237.34㎡)	56,012.86㎡ (56,012.86㎡)	5,913.55㎡ (5,913.55㎡)	83,163.75㎡ (83,163.75㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	中宮キャンパス全体				
	151室	93室	10室	7室 (補助職員 人)	5室 (補助職員 人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数		中宮キャンパス全体 238室 うち空室27室				
	外国語学部 国際日本学科			16 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 図書584,607[251,527] 雑誌 2,762[761]		
	外国語学部 国際日本学科	64,000[24,500] (61,128[23,470])	500 [330] (463[313])	30,000[29,600] (28,031[27,970])	6,500 (6,679)	400 (358)	0 (0)			
	計	64,000[24,500] (61,128[23,470])	500 [330] (463[313])	30,000[29,600] (28,031[27,970])	6,500 (6,679)	400 (358)	0 (0)			
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		中宮キャンパス全体				
	18,120 ㎡	2,066 席		815,166						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			中宮キャンパス全体					
	14,453.63㎡	テニスコート		アーチェリー練習場						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体	
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	400千円	400千円	-	-		
		共同研究費等	2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	-	-		
		図書購入費	500千円	500千円	500千円	500千円	-	-		
		設備購入費	-	-	-	-	-	-		
		学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
1,400千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	千円	千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、私立大学等経常経費補助金 等								

既設大学等の状況	大 学 の 名 称 関西外国語大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率(収容定員充足率)	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	外国語学部			3年次			1.03		
	英米語学科	4	865	300	4975	学士(英語学)	1.05	昭和41年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号
	スペイン語学科	4	250	25	1050	学士(スペイン語学)	0.96	昭和41年度	同上
	英語・デジタルコミュニケーション学科	4	200	0	200	学士(英語学)	1.05	令和5年度	同上
	英語国際学部			3年次			1.03		
	英語国際学科	4	700	100	3000	学士(英語国際)	1.03	平成26年度	大阪府枚方市御殿山南町6番1号
	英語キャリア学部						0.95		
	英語キャリア学科	4	120	-	480	学士(英語キャリア)	1.00	平成25年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号
	英語キャリア学科 小学校教員コース	4	50	-	200	学士(教育)	0.81	平成25年度	同上
	国際共生学部						1.05		
	国際共生学科	4	70	30	70	学士(国際共生)	1.05	令和5年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号
	外国語学研究科 博士前期課程 英語学専攻	2	15	-	30	修士(英語学) 修士(英語教育)	0.55 0.46	昭和48年度	同上
	言語文化専攻	2	20	-	40	修士(言語文化) 修士(日本語学) 修士(国際共生 コミュニケーション)	0.62	昭和51年度	同上
	博士後期課程 英語学専攻	3	3	-	9	博士(英語学) 博士(英語教育)	0.44 0.33	昭和54年度	同上
	言語文化専攻	3	3	-	9	博士(言語学) 博士(言語文化) 博士(日本語学) 博士(文化人類学) 博士(比較文化学)	0.55	昭和54年度	同上
既設大学等の状況	大 学 の 名 称 関西外国語大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率(収容定員充足率)	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	英米語学科	2	800	-	1600	短期大学士(英語学)	0.71	昭和28年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号

※令和5年度入学定員減(△305)

※令和5年度入学定員増(20)

※収容定員は令和5年4月時点(編入学:令和5年秋学期から変入)

附属施設の概要	名 称 目 的	国際文化研究所 文化人類学に関する調査研究、特に各国の文化の比較研究を行い、世界諸民族の文化の友好親善に貢献することを目的とする。
	所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 昭和47年4月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用
	名 称 目 的	人権教育思想研究所 人権問題および人権教育思想について研究調査し、基本的人権の確立に努めることを目的とする。
	所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 平成6年4月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用
附属施設の概要	名 称 目 的	教職教育センター 本学「教職課程」履修者を対象にした教員養成に係る支援活動および小・中・高等学校等との教育研究連携事業を通じた教育現場での諸課題の教育研究等をにより、幅広く学内外の教育政策・事業全般の推進に貢献することを目的とする。
	所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 平成15年9月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの1階の一部を使用
附属施設の概要	名 称 目 的	イベロアメリカ研究センター スペイン、ポルトガルならびにラテンアメリカを対象とする研究を行い、実践的な外国語能力と国際社会に通用する知識と情報を学内外に供することを目的とする。
	所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 平成22年4月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(外国語学部国際日本学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門必修科目	Introduction to Academic English	1前	2				○		1	1				兼2	
	Essay Writing I	1後	2				○				2			兼2	
	Essay Writing II	2前	2				○				2				
	Essay Writing III	2後	2				○				2				
	Academic Reading I	1前	4				○							兼6	
	Academic Reading II	1後	4				○							兼6	
	Academic Reading III	2前	4				○		1	1				兼2	
	Academic Reading IV	2後	4				○		1	1				兼2	
	Communication in English I	1前	2				○				3				兼2
	Communication in English II	1後	2				○				3				兼2
	Communication in English III	2前	2				○				4				兼2
	Communication in English IV	2後	2				○				4				兼2
	English Presentation and Discussion A	3前	4				○				4				
	English Presentation and Discussion B	3後	4				○				4				
国際日本基礎演習 I	1前	2				○				1	1	1			
国際日本基礎演習 II	1後	2				○				1	1	1			
小計 (16科目)		—	44	0	0		—		1	2	6	1		兼12	
専門選択科目	国際日本文化論	1前・後		4			○		1	1					
	日本文化史	1前・後		4			○		1						
	日本の現代文化	2前・後		4			○			1					
	日本の伝統文化	3前・後		4			○				1				
	地域研究 (北アメリカ)	2前・後		4			○							兼1	
	地域研究 (ヨーロッパ)	2前・後		4			○							兼1	
	地域研究 (アジア)	2前・後		4			○			1					
	比較文化研究	3前・後		4			○							兼1	
	多文化共生	3前・後		4			○							兼1	
	社会学	1前・後		4			○							兼1	
	政治学	1前・後		4			○							兼1	
	経済学	1前・後		4			○							兼1	
	法学	1前・後		4			○							兼1	
	国際関係A	1前・後		4			○							兼1	
	国際関係B	2前・後		4			○							兼1	
	国際政治経済論	2前・後		4			○							兼1	
	ソーリズム・マネジメント	1前・後		4			○							兼1	
	日本語学研究A	1前・後		4			○			2					
	日本語学研究B	2前・後		4			○				1	1			
	音声学特殊講義	3前・後		4			○							兼1	
	言語学研究A	1前・後		4			○			1					
	言語学研究B	1前・後		4			○			1					
	言語学研究C	1前・後		4			○							兼1	
	言語分析	2前・後		4			○							兼1	
	英検演習 (準1級)	1前・後		2				○						兼1	
	英検演習 (1級)	1前・後		2				○						兼1	
	TOEFL演習 I	1前・後		2				○						兼1	
	TOEFL演習 II	1前・後		2				○						兼1	
TOEIC演習 I	2前・後		2				○						兼1		
TOEIC演習 II	2前・後		2				○						兼1		
心理学	3前・後		4			○							兼1		
教育心理学	1前・後		2			○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
専門 選 択 科 目	教職概論	1前		2		○									兼1	
	教育制度概論	2前・後		2		○									兼1	
	教育方法の理論と実践	3後		2		○									兼1	
	生徒・進路指導論	3前・後		2		○									兼1	
	渡日外国人児童教育	3前・後		2		○									兼1	
	教育相談	2前・後		2		○									兼1	
	日本語教授法A	2前・後		4		○			1							
	日本語教授法B	2前・後		4		○				1						
	日本語教育実習	4後		2				○	1							
	日本語教育実習演習	4後		2			○				1					
	日本語教育実践実習A	3前・後		2				○	1						※1	
	日本語教育実践実習B	3前・後		2				○				1			※1	
	デジタルリテラシー	1通		2		○									兼1	
	キャリアデザイン	1前・後		2		○									兼1	
	キャリア形成	2前・後		2		○									兼1	
	国際教養A	2・3・4前・後		4				○							兼1	※2
	国際教養B	2・3・4前・後		4				○							兼1	※2
	国際教養C	2・3・4前・後		4				○							兼1	※2
	国際教養D	2・3・4前・後		4				○							兼1	※2
	国際教養E	2・3・4前・後		4				○							兼1	※2
	国際教養F	2・3・4前・後		4				○							兼1	※2
	国際日本総合演習Ⅰ	3前		2				○	2	1						
	国際日本総合演習Ⅱ	3後		2				○	2	1						
	インディペンデント・スタディⅠ	4前		2				○	5	4	6	1				
	インディペンデント・スタディⅡ	4後		2				○	5	4	6	1				
	小計 (57科目)	—	—	0	180	0	—	—	5	4	6	1	0	兼31		
全 学 共 通 教 育 科 目	哲学	1前		4		○								兼1		
	人権問題論	3後		4		○								兼1		
	グローバル・アース	2後		4		○								兼1		
	数学	2前		4		○								兼1		
	文学	1前		4		○								兼1		
	総合科目A	3前		4		○								兼1		
	総合科目B	3後		4		○								兼1		
	総合科目C	3前		4		○								兼1		
	総合科目D	3後		4		○								兼1		
	総合科目E	3前		4		○								兼1		
	総合科目F	1前		2		○								兼1		
	総合科目G	1後		2		○								兼1		
	総合科目H	1前		2		○								兼1		
	総合科目I	1後		2		○								兼1		
	スポーツ健康科学	3前・後		2				○							兼1	
	スペイン語Ⅰ	2前		2				○							兼1	
	スペイン語Ⅱ	2後		2				○							兼1	
	中国語Ⅰ	2前		2				○							兼1	
	中国語Ⅱ	2後		2				○							兼1	
	中国語Ⅲ	2後		2				○							兼1	
フランス語Ⅰ	2前		2				○							兼1		
フランス語Ⅱ	2後		2				○							兼1		
ドイツ語Ⅰ	2前		2				○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全 学 共 通 教 育 科 目	ドイツ語Ⅱ	2後		2			○								兼1	集中 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1
	イタリア語Ⅰ	2前		2			○								兼1	
	イタリア語Ⅱ	2後		2			○								兼1	
	ハンブルグⅠ	2前		2			○								兼1	
	ハンブルグⅡ	2後		2			○								兼1	
	ロシア語	2前		2			○								兼1	
	ポルトガル語	2後		2			○								兼1	
	デンマーク語	2前		2			○								兼1	
	スウェーデン語	2後		2			○								兼1	
	ハンガリー語	2前		2			○								兼1	
	フィンランド語	2休		2			○								兼1	
	アラビア語	2前		2			○								兼1	
	ラテン語	2後		2			○								兼1	
	就業体験実習A	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	就業体験実習B	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	就業体験実習C	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	就業体験実習D	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	就業体験実習E	2・3・4前・後		1				○							兼1	
	ボランティア実習A	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	ボランティア実習B	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	ボランティア実習C	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	ボランティア実習D	2・3・4前・後		2				○							兼1	
	ボランティア実習E	2・3・4前・後		1				○							兼1	
小計 (46科目)		—	0	110	0	—			0	0	0	0	0	0	兼28	
合計 (119科目)		—	44	290	0	—			5	4	6	1	0	0	兼67	
学位又は称号		学士 (国際日本)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
専門教育科目 専門必修科目 44単位 専門選択科目 56単位(*) 全学共通教育科目 24単位 * : 卒業要件単位56単位を超えて修得した単位数は、全学共通教育科目に充当 することができる。(履修科目の登録の上限: 各セメスター間24単位) 備考※1: 国内外の就業体験やボランティア活動における学修 (事前・事後指導含む) 等について単位認定を行う科目。 備考※2: 留学準備教育のための授業、留学中の学修等について単位認定を行う 科目。							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部国際日本学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 必 修 科 目	Introduction to Academic English	本科目は、アカデミックな内容を効果的に学習するために、英語学習の根幹をなす文法の基礎力と応用力の向上を主眼とする。多岐にわたる専門分野の英語文献を読み解いたり、複雑な内容を英語で理路整然と発信したりするには、確かな文法知識が不可欠である。授業では品詞、句、節などの理解をはじめ、複雑な文構造や論理的関係を分析する力を養成し、難解な英文の内容を正確に理解できる力を育成する。	
	Essay Writing I	本科目は、アカデミックな場面や社会において必要となるライティング力修得を目標とする。様々な種類の情報を正しく認識し、正確に書いて表現することを目指す。短い文章や、Eメール、手紙、感想文などを書くことを通じて、情報の整理、組み立て、下書き、編集、校正などのライティングのプロセスも学ぶ。また、学生同士のピアフィードバックを行うことにより、より効果的に文章力向上をはかる。	
	Essay Writing II	本科目は、「Essay Writing I」で修得したスキルのさらなる向上を目指す。長めの文章を書くことを通じて、より説得力のある文章を書く力の向上を目標とする。ライティングプロセスのなかで、アイデアを発展、情報の整理、正しい文法・語彙の使い方を学ぶ。この授業のなかで最低ひとつの複数パラグラフで構成される手紙とアカデミックなエッセイを作成する。	
	Essay Writing III	本科目は、「Essay Writing I」および「Essay Writing II」で修得したスキルのさらなる向上を目指す。より長い文章を正確に英語で書く方法を学ぶ。最低でも二つ以上の情報源から収集された情報を使って長文の作成をしたり、様々なメディア（ブログやメール、ウィキ、掲示板など）で使用される英語の文章の作成にも挑戦する。	
	Academic Reading I	本科目は、社会科学や人文科学分野の文献を読み解くために必要な技能や知識の修得を目標とする。文学作品、批評、評論、新聞記事など様々な文献を精緻に理解することで、世界の諸問題への理解を深化させ、異文化に関する教養を高める。同時に、読解力向上に焦点を合わせつつ総合的な英語力向上を目指す。歴史、心理学、哲学、宗教からジェンダーや民族、環境問題まで幅広い題材の素材を通し、基礎的知識を修得すると同時に、物事を捉える多様な視点について学ぶ。	
	Academic Reading II	本科目は、「Academic Reading I」に引き続き、社会科学や人文科学分野に関する文献読解に必須の技能や知識の修得を目標とする。様々な概念や理論を学修し、また読解力向上に焦点を合わせつつ総合的な英語力のさらなる向上をはかる。歴史、哲学からジェンダーや民族、環境問題などについてのより難易度の高い素材を使用し、文献内容の信憑性を検討しながら、各分野の教養を深める。またアナロジーなど書き手が用いる手法についても理解し、文献を批判的に検討する力も修得する。	
	Academic Reading III	本科目は、「Academic Reading II」に引き続き、社会科学や人文科学分野に関する文献の読解に求められる技能や知識と、英語圏で活躍できる英語力を修得する。文献を契機に様々な概念や理論を学修し、読解力向上に焦点を合わせつつ総合的な英語力のさらなる向上をはかる。歴史、宗教からジェンダーや環境問題まで幅広い題材を扱い、より高度でより長い素材に取り組み、情報を正確かつ批判的に読み解き、論理的な矛盾点を指摘できるだけの思考力も養う。	
	Academic Reading IV	本科目は、「Academic Reading III」の発展的な位置づけである。社会科学や人文科学分野に関する文献の読解に求められる技能や知識と、英語圏で活躍できる英語力を修得する。文献を契機に様々な概念や理論を学修し、読解力向上に焦点を合わせつつ総合的な英語力の飛躍的な向上をはかる。歴史、心理学、哲学、宗教、ジェンダーや民族、環境問題などに関する高度な学術的な論考を批判的に読み解き、その意義の検証や問題点の検討を含め、グローバルレベルの知見の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 必 修 科 目	Communication in English I	本科目は、英語でのコミュニケーションスキル向上を目指す。話し言葉を正確に理解し、自信をもって流暢に英語で話す力を身につける。リーディングを通じて語彙力向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップにつなげる。教室のなかでは、バラエティに富んだ様々なシチュエーションを想定した演習を行う。	
	Communication in English II	本科目は、「Communication in English I」で身につけたコミュニケーション力のさらなる向上を目指す。引き続き、話し言葉を正確に理解し、自信をもって流暢に英語で話す力を身につける。ライティングやリーディングを通じて語彙力向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップにつなげる。教室のなかでは、バラエティに富んだ様々なシチュエーションを想定した演習を行う。	
	Communication in English III	本科目は、1年次に身につけたコミュニケーション力のさらなる向上を目指す。引き続き、話し言葉を正確に理解し、自信をもって流暢に英語で話す力を身につける。ライティングやリーディングを通じて語彙力向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップにつなげる。教室のなかでは、バラエティに富んだ様々なシチュエーションを想定した演習を行う。	
	Communication in English IV	本科目は、コミュニケーション力のさらなる向上を目指す。引き続き、話し言葉を正確に理解し、自信をもって流暢に英語で話す力を身につける。ライティングやリーディングを通じて語彙力向上や様々なトピックに親しむことにより、英語でのさらなるコミュニケーション力アップにつなげる。英語力を活用して情報収集し、効果的な英語でのプレゼンテーションにつなげる。	
	English Presentation and Discussion A	本科目は、英語でのプレゼンテーションやディスカッションに必要なスキルと方法の修得を目的とする。流暢なスピーキング力向上やリスニング力の向上に加え、ノートテイキングのスキルも学ぶ。様々なトピックについて調べ、結果を整理し、プレゼンテーション用資料に仕上げ、プレゼンテーションを行って教員や学生からの質問にも対応する。またディスカッションでは、意見や質問などを取りまとめたり、様々な役割を担ったり、ロールプレイングの学習活動も行う。	
	English Presentation and Discussion B	本科目は「English Presentation and Discussion A」に引き続き、英語でのプレゼンテーションやディスカッションに必要なスキルと方法の修得を目的とする。流暢なスピーキング力向上やリスニング力の向上に加え、ノートテイキングのスキルも学ぶ。様々なトピックについて調べ、結果を整理し、プレゼンテーション用資料に仕上げ、プレゼンテーションを行って教員や学生からの質問にも対応する。またディスカッションでは、意見や質問などを取りまとめたり、様々な役割を担ったり、ロールプレイングの学習活動も行う。	
	国際日本基礎演習 I	本科目は、日本の文化・社会、日本語学に関する文献講読等とおして、本学科の基盤的な知識を修得する。併せて、本演習をおして、アカデミックスキルとしての思考力、情報収集力、プレゼンテーション力を養う。	
	国際日本基礎演習 II	本科目は、日本の文化・社会、日本語学について、「国際日本基礎演習 I」で培った知識・スキルをもとに、国内外に効果的に発信する方法論について学ぶ。併せて、受講生各人が、テーマを設定し、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、美しい「日本」とは何かという点について、考えを深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 選択 科目	国際日本文化論	本科目は、日本の文化・社会・歴史等、様々な分野を概観すると同時に、多様な文化的背景をもつ人々と、どのような交流をするべきかについて考察する。さらに、諸外国の文化・社会・歴史等に関する知識を身につけ、比較文化論的アプローチを用いながら、異文化理解力、高度な国際感覚を身につけていく。本授業を通して、高度な英語運用能力を用いて、日本の文化と社会について効果的に発信できる方法を学ぶ。	
	日本文化史	本科目は、古代から中世・近世を通して現代に至るまでの日本文化の変容を、通史的観点から考察する。中国大陸から仏教が弘通した後、日本独自の基層文化には、漢字をはじめ、大陸の芸術と思想などの様々な領域の文化が伝わった。しかし日本人は漢字を安易に受容するのではなく、「かな文字」を創出し、独自の日本文化を形成した。このような日本文化の独自性の形成の過程を、宗教、思想、芸能など幅広い分野における文献を用いて概観する。本授業を通して、受講生は現代の日本文化の形成過程を理解し、海外に発信できる素養を身につける。	
	日本の現代文化	本科目は、現代の日本文化の代表であるポップカルチャー（映画、アニメ、マンガ等）を扱い、日本のポップカルチャーが世界に与える影響を社会学的観点から考察する。受講生は日本のポップカルチャーについてテーマを選んで詳細に研究し、プレゼンテーションとディスカッションを通して日本のポップカルチャーが世界の人々を魅了するその要因について考察し、発表できる力を身につける。	
	日本の伝統文化	本科目は、日本の伝統芸能（能楽・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃等）を中心に取り上げ、諸外国の伝統文化との比較を通して日本の伝統芸能の理解を深める。また、日本の誇るべき文芸作品、文化財についても概観したい。本授業を通して、日本の伝統文化を次世代にどのように継承すればよいのか、さらに、日本の誇るべき伝統文化を、高度な英語運用能力を用いて、どのように世界に効果的に発信できるのか、その方法論についても考えを深める。	
	地域研究（北アメリカ）	本科目は、北アメリカに包含される国やサブ・リージョンに関わるテーマに基づいて講義を行う。文化人類学、民族学、民俗学、歴史学、社会学、文化・芸術・音楽など、担当者の専門分野に応じて、その切り口をアレンジする。多角的・専門的視点から対象国・サブ・リージョンの事情と特徴を取り上げ、対象に関する新しくかつ包括的な問題意識を獲得する。	
	地域研究（ヨーロッパ）	本科目は、ヨーロッパに包含される国やサブ・リージョンに関わるテーマに基づいて講義を行う。文化人類学、民族学、民俗学、歴史学、社会学、文化・芸術・音楽など、担当者の専門分野に応じて、その切り口をアレンジする。多角的・専門的視点から対象国・サブ・リージョンの事情と特徴を取り上げ、対象に関する新しくかつ包括的な問題意識を獲得する。	
	地域研究（アジア）	本科目は、アジアに包含される国やサブ・リージョンに関わるテーマに基づいて講義を行う。文化人類学、民族学、民俗学、歴史学、社会学、文化・芸術・音楽など、担当者の専門分野に応じて、その切り口をアレンジする。多角的・専門的視点から対象国・サブ・リージョンの事情と特徴を取り上げ、対象に関する新しくかつ包括的な問題意識を獲得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	比較文化研究	本科目では、世界の様々な地域の文化形態（習慣・法律・儀式・道徳・倫理・社会規範・技術など）を特定のテーマに沿って通時的・共時的に比較対照し、各文化の固有性と人間文化の多様性・相対性について考察する。さらに、人間の精神活動を表出したもの、あるいはその行為（音楽・美術・演劇・ダンス・スポーツ・文学・思想・映画・建築など）にも焦点をあて、その分野において比較対照的アプローチによって理解を深める。映像・音声・画像などの補助教材を積極的に利用する。	
	多文化共生	本科目では、SDGsにおいても目標とされる「ソーシャル・インクルージョン」（社会的包摂）のあり方について理解を深める。ソーシャル・インクルージョンとは、国籍や民族の異なる人々の権利や利益が尊重され、地域や社会の構成員としてともに助け合い、平和に生活することである。多文化共生の先進国であるオーストラリア等の海外事例を学習しながら、共生社会のあるべき姿、その実現に向けた制度や政策について考察する。	
	社会学	本科目は、社会学の形成過程、および様々な下位分野について概説する。社会に働くさまざまな力の構造を分析しつつ、人間関係の本質を体系的に解明する社会学の基礎を学ぶ。社会階層・エスニシティ・ジェンダー・セクシュアリティ・家族・地域・逸脱・宗教・政治・経済・産業・労働・環境・人口・文化など、社会学の多岐にわたる下位分野も取り上げる。社会科学における学習意欲の充実に念頭に、現代社会の諸問題についても講義を行う。	
	政治学	本科目は、政治学の基本的な概念に基づいて現代日本政治の理論と現実を平易に解説する。具体的には、政策がどのようなイシューとして設定され、どのようなアクターと影響力の下で、政府や国会において立案・決定されるのか、また政党がどのような役割を持つのかを政治学の手法を用いて理論的・実証的に分析する能力を修得する。	
	経済学	本科目は、経済学の基礎理論を教え、実際に起こっている様々な経済現象を適切に分析する能力を養成する。また、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済、国際交通論、および金融論といった、より発展的な講義の前提となる知識を獲得する。	
	法学	本科目は、日本国憲法に関する基礎的な法解釈論を理解し、リーガルマインド、法的思考力、客観的思考力を育成する。「基本的人権」に関する講義を中心とするが、各人権内容の概説にとどまらず、判例や裁判例を用いることにより判例法による理論の構築を目指す。初等中等教育に関する憲法問題についても取り上げる。	
	国際関係 A	本科目では、国際政治を歴史的な文脈から教える。20世紀になり激増した国民国家 (the nation-state) を主要な主体とする国際政治の枠組みとその変遷、それと密接に絡む外交、軍事、経済などの分野における問題、つまり勢力均衡、同盟、戦争、革命、ナショナリズム、経済体制、イデオロギー、核兵器、技術革新といった諸問題を論じる。	
	国際関係 B	本科目では、国際政治において常に議論の中核であり続ける「安全保障 (security)」というものを教授する。安全保障は戦争と平和に関する問題そのものと言ってよいであろう。ここでは伝統的な「国家安全保障 (national security)」から近年提唱されている「人間の安全保障 (human security)」に至るまで、それらの基本的な概念と理論を扱う。それと同時に戦争と平和をめぐる様々な具体的な事例も論じる。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	国際政治経済論	本科目では、国際政治における経済的側面を教える。歴史的に国家の勢力拡大と経済発展は表裏一体を成してきた。それは市場、労働力、食料、エネルギー資源などを巡っての闘争である。その一方で国益としばしば衝突する「多国籍企業」の存在も扱う。さらに、第二次世界大戦後に急増した新興国家の経済発展と先進国からの対外援助に関して政治的、経済的、社会的な側面から論じる。	
	ツーリズム・マネジメント	本科目は、観光の概念、観光の歴史、国際観光の現状、日本の観光振興政策、観光のもたらす経済効果、観光資源の保護や環境保全との調和など持続可能な観光のありかたについて学ぶ。	
	日本語学研究A	本科目は、日本語における音声学・音韻論および語彙論の基礎的知識を学修することを目的とする。音声学・音韻論では、特に、日本語の基本的な音声学の知識について学ぶ。例えば、母音、子音、アクセント、イントネーション、拍、文字と音声の関係性を理解する。語彙論では、日本語の語彙体系、語構成、語彙の意味変化などに焦点を当て、①通時的側面（語彙の史的変遷を通して、語彙の変化を考える）、②共時的側面（同時代の言葉の研究について考える）の観点から学び、日本語学の音声学・音韻論および語彙論の基礎的知識を身につける。	
	日本語学研究B	本科目は、日本語における基礎的な文法的知識を理解することを目的とする。従来の学校文法ではなく、日本語学の専門用語、例えば、モダリティ、アスペクト等についても理解できるようにする。さらに、授業では、日本語学の文法研究の史的変遷、すなわち、日本語史、日本語学史についてもふれるため、受講生各人が、積極的に日本における文法学者の理論を、諸資料や文献を活用しながら、調べていくことにする。また、日本語学の文法理論を非母語話者にどのように教授すればよいのかという点についても深く考えてみる。このような考察を通して、日本語学における文法の基礎的知識を身につけ、日本語教育の場で、活かすことができるようになる。	
	音声学特殊講義	本科目は、日本語の音声研究（特に、音声学の専門領域である調音音声学・聴覚音声学・音響音声学）の理論について学修する。音声学の一研究部門である調音音声学を学修し、日本語の地域方言による違い、イントネーション、アクセントなどについて理解を深める。これらの学修を通して「美しい日本語」について考察する。また、理論的側面だけではなく、実践的な音声の発声法を学ぶことによって、メディア、放送業界でレポーターやアナウンサーとして活躍できるように実践力を身につける。	
	言語学研究A	本科目は、言語の音声を研究対象とする音声学と音韻論を学ぶことを主たる目標として講義を行う。音声学では、主として発音の仕組みが扱われ、音声の物理的な音波としての側面なども教える。音韻論では、様々な音声の特徴を基に発音の規則、つまり音韻規則を扱い、それに関連する音韻論の基本的な概念と分析方法を教える。	
	言語学研究B	本科目は、言語の基本的な単位である形態素や語を研究対象とする形態論と、語句をまとめて節や文を組み立てる統語論を学ぶことを主たる目標として講義を行う。形態論では、語形変化や語形成の仕組みなど語の内部構造などを体系的、理論的に扱う形態論の基本的な概念と分析方法を教える。統語論では、節や文の構造や様々な文法現象を体系的、理論的に扱う統語論の基本的な概念と分析方法を教える。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	言語学研究C	本科目は、言語によって示される意味を研究対象とする意味論と具体的な文脈における文の使用を扱う語用論を学ぶことを主たる目標として講義を行う。意味論では、語や文といった言語形式が伝えている意味を扱う意味論の基本的な概念と分析方法を教える。語用論では、言語形式によって伝えられている意味に加え、具体的な文脈中で言葉をどう使用するかという観点から、言語形式以外の要素（話し手や聞き手）によって伝えられている文脈の意味も対象として扱う語用論の基本的な概念、および分析方法を教える。	
	言語分析	本科目は、言語学研究A-Cにおいて学んだ知識に基づき、実際に様々な言語現象を分析することを主たる目標として講義を行う。一連の分析活動として、対象となる言語現象の特定、データ収集、調査、分析、結果の発表等が挙げられる。英語、日本語の現象だけでなくフランス語等の様々な言語現象を取り扱ったり、個別言語の歴史的变化、地域的変種、社会的変種の分析を扱うことも可能である。また、音声や文字により意思疎通を行う言語だけでなく手話等の言語現象も分析の対象とすることが可能である。	
	英検演習（準1級）	本科目は、英検（実用英語技能検定）の準1級の取得に必要な技能を身につけることを目標とする科目である。英検合格に必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を強化する。また、検定合格だけにとどまるのではなく、より高度な英語運用能力を養成する。	
	英検演習（1級）	本科目は、英検（実用英語技能検定）の1級の取得に必要な技能を身につけることを目標とする科目である。英検合格に必要な「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を強化する。また、検定合格だけにとどまるのではなく、より高度な英語運用能力を養成する。	
	TOEFL演習I	本科目は、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) において高得点を取得するのに必要な技能を身につけることを目標とする科目である。学内で実施されているペーパー版TOEFL (PBT/ITP) の対策に加え、学外で実施されているインターネット版TOEFL (iBT) の導入的対策を行う。	
	TOEFL演習II	本科目は、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) において高得点を取得するのに必要な技能を身につけることを目標とする科目である。学内で実施されているペーパー版TOEFL (PBT/ITP) 対策においてはより発展的な内容を扱い、また、学外で実施されているインターネット版TOEFL (iBT) のより本格的な対策を行う。	
	TOEIC演習I	本科目は、TOEIC (Test of English for International Communication) において600点を取得するのに必要な技能を身につけることを目標とする科目である。TOEICでは「聞く」「読む」の2技能がテストによって判定される。TOEICの題材は身近な内容からビジネスまで多岐にわたる。そのため、英語技能はもちろん、ビジネスに関する基礎的な知識を獲得する。	
	TOEIC演習II	本科目は、TOEIC (Test of English for International Communication) において730点を取得するのに必要な技能を身につける。TOEICでは「聞く」「読む」の2技能がテストによって判定される。TOEICの題材は身近な内容からビジネスまで多岐にわたる。そのため、英語技能はもちろん、ビジネスに関する基礎的な知識を獲得する。	
	心理学	本科目は、人間の理解に必要な基礎的心理学（感覚・知覚・記憶・情報処理・学習・思考・言語など）と、実際の生活場面での心理学（臨床心理学・社会心理学・対人コミュニケーションなど）について扱う。講義においては過去の心理学研究の紹介だけにとどまらず、具体的な問題の体験を通して“こころ”とは何かについても考える。心理学の基本的な知識を修得することで、科学的なものの見方、個人及び個人と社会・環境との関わりの中での“こころ”と行動を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	教育心理学	本科目は、人間を理解し、より良い方向に導くために必要な基礎的知識・方法（教育への適用・実践）を身につけることを目標とする。そのために必要な知識として、基礎的領域では記憶・学習・動機づけ・発達、分析手法を含むパーソナリティ・創造性・知能、そして問題行動の理解につながる不適応行動等について詳説する。その後、教育実践に必要な集団心理の要件および指導法を身につける。	
	教職概論	本科目は、教職についての理解を深めるとともに、教育者に相応しい資質の向上を目指す。教育者に相応しい資質とは、①豊かな人間性、②幅広い社会性、③実践的な専門性、④教育愛(情熱と熱意)、及びゆるぎない教育的使命感のことである。そのために、基本的な生活習慣と基礎的学力(学ぶ力)を確実に身につける。	
	教育制度概論	本科目は、教育制度(特に学校教育制度)の基本原則を、歴史的発展、比較考察を踏まえて明らかにし、21世紀における発展・改革の方向やそのあり方について検討するとともに、その社会システム上の位置や意味を明らかにすることを目的とする。同時にこうした制度理念を具体的に学校段階で実施し、学校教育の目的を効率的・効果的に実現するために必要な学校経営にかかわる基本的知識や技法についても身につける。	
	教育方法の理論と実践	本科目では、教育専門職に求められる「教育方法論」を系統的に学修する。すなわち、学校教育における授業・学習・評価・カリキュラム等の教育方法に関する問題を探究するとともに、必要な理論や方法論を学習し、問題解決するために教育実践力を身につける。また、ビデオによる小・中・高等学校の授業実践研究を通じて、授業改善を目的とした授業分析力や授業研究力を育成する。	
	生徒・進路指導論	本科目では、まず生徒指導に関する理論と方法について取り上げ、次いで進路指導に関する理論と方法について学ぶ。生徒指導については、生徒指導が学習指導とともに学校教育の基本的な機能であり、学校における教育活動のどの部分を切り取っても、そこには生徒指導の機能が生きて働いていることを明確にする。その上で、暴力行為、いじめ等の深刻な生徒指導上の問題を取り上げ、具体的な事例を紹介し、その対応の方法について考察する。	
	渡日外国人児童教育	本科目は、近年急増している帰国・渡日児童(生徒)に対する教育について総合的に学び、同教育に対応できる資質・能力を身につける。我が国における移民(外国人受け入れ)施策の経緯、現状と課題、及び今後の方向性、帰国・渡日児童(生徒)の歴史的経緯、現状と課題、及び今後の方向性、帰国・渡日児童(生徒)教育の実践について講義する。	
	教育相談	本科目は、主に「生徒指導提要～第5章：教育相談～」に示される趣旨に基づき、まず、教育相談の原理とともに、カウンセリング、心理検査、心理療法等の学校心理学に関する理論と実践について理解を深め、教育相談の資質を修得する。そして、現代の教育現場の実情と心の問題について具体的、実践的に対応できるよう「いじめ」「非行」「心の病気」「キャリア教育」などの事例をもとに解説し、また、学生によるグループ討論を通じて教師自ら積極的、建設的に指導できる資質を身につける。さらに、保護者の支援、他の専門機関の役割と連携のあり方等についても理解を深め、現代の学校教育の役割と様々なニーズに対応できる教師の資質を修得する。	
	日本語教授法A	本科目は、「国際日本基礎演習」や「日本語学研究」で得た知識を基に、実践的に日本語教育におけるカリキュラムデザイン、様々な日本語教授法、教科書分析、教材教具の作成方法、語用分析などを学ぶ。また、第二言語習得に関する理論的研究、様々な外国語教授法を教え、より実践的で効果的な日本語教育を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	日本語教授法B	本科目は、「国際日本基礎演習」や「日本語学研究」で得た知識を基に、カリキュラムの作成から実践的な教授法を修得する。また、実践的な教授法を身につけるために、模擬授業を実施し、問題点を明らかにし、どのようにすればよりよい授業が構築できるのかを考察する。	
	日本語教育実習	本科目は、日本語教育に関する教材研究、模擬授業、教壇実習、個別指導等を通じて日本語を母語としない人に対して日本語を教授できるようになることを目指す。	
	日本語教育実習演習	本科目は、日本語教育の実習演習を通じて日本語教育の実践的な技能を身につけることを目指す。具体的には、日本語の初級および中上級の指導箇所を担当し、コミュニケーション・アプローチを柱にした指導法を考え、工夫を凝らした授業が行えるようになる。	
	日本語教育実践実習A	海外の大学において日本語教師として授業実践を行い、事前事後の指導時間と活動時間などを勘案し、認定される科目である。	
	日本語教育実践実習B	海外の大学において日本語教師として授業実践を行い、事前事後の指導時間と活動時間などを勘案し、認定される科目である。	
	デジタルリテラシー	本科目では、コンピューターを扱う上で必要となる基本的な知識を教え、情報処理に関する効率的な操作方法を実習を通じて修得する。春学期は、コンピューターを扱う上で知っておくべき知識を教授する。演習ではタイピング練習によってキーボード入力をトレーニングし、ワープロソフト (Word) を用いてレポートやビジネス文書作成技能を修得する。秋学期は、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を用いたスライド作成について教授する。また、表計算ソフト (Excel) を用いて表やグラフの作成、データベースの活用方法を修得する。	
	キャリアデザイン	本科目では、キャリアに関する概念や理論を教えるとともに、社会や産業構造についての理解を深め、自分らしいキャリアの実現に向けて主体的に行動を起こす力を修得する。また、自らのキャリアを上げるために必要な論理的思考力やコミュニケーションスキルなど、基本的なキャリアデザインスキルを磨く機会を設ける。	
	キャリア形成	本科目では、産業界、行政、非営利組織など様々な組織で活躍する実務家をゲストスピーカーとして招聘し、業界・組織・仕事に関する理解を深め、現実的な視点から職業観を養う力を育成する。社会の現状や動向、働くことの意味、社会が求める人材像について考えるとともに、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現すべく、具体的な行動を起こせるようになることを目標とする。授業はリレー講義形式だが、ゲストとの質疑応答を通して質問力や表現力などのコミュニケーション能力を高める機会も設ける。	
	国際教養A	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目 (他学科履修等) として位置付けるとともに、留学先大学において修得した科目を本学科の科目として単位認定するにあたり、留学先での修得科目の講義内容、演習内容、授業時間数、成績などを個別に勘案のうえ認定するための科目である。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 選 択 科 目	国際教養 B	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目（他学科履修等）として位置付けるとともに、留学先大学において修得した科目を本学科の科目として単位認定するにあたり、留学先での修得科目の講義内容、演習内容、授業時間数、成績などを個別に勘案のうえ認定するための科目である。	
	国際教養 C	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目（他学科履修等）として位置付けるとともに、留学先大学において修得した科目を本学科の科目として単位認定するにあたり、留学先での修得科目の講義内容、演習内容、授業時間数、成績などを個別に勘案のうえ認定するための科目である。	
	国際教養 D	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目（他学科履修等）として位置付けるとともに、留学先大学において修得した科目を本学科の科目として単位認定するにあたり、留学先での修得科目の講義内容、演習内容、授業時間数、成績などを個別に勘案のうえ認定するための科目である。	
	国際教養 E	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目（他学科履修等）として位置付けるとともに、留学先大学において修得した科目を本学科の科目として単位認定するにあたり、留学先での修得科目の講義内容、演習内容、授業時間数、成績などを個別に勘案のうえ認定するための科目である。	
	国際教養 F	本科目は、留学先大学における人文科学系の学修を念頭に、その準備教育科目（他学科履修等）として位置付けるとともに、留学先大学において修得した科目を本学科の科目として単位認定するにあたり、留学先での修得科目の講義内容、演習内容、授業時間数、成績などを個別に勘案のうえ認定するための科目である。	
	国際日本総合演習 I	本科目は、日本語学、日本の文化・社会、日本語学の分野から、受講生の関心のテーマにもとづき、文献収集・分析をとおして、専門的知識を深化させる。併せて、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等をとおして、自らの研究テーマを深める。	
	国際日本総合演習 II	本科目は、各自受講生が設定したテーマについて、「国際日本総合演習 I」で培った専門的知識・アカデミックスキル等をもとに、これらをさらに発展させ、インデペンデントスタディの完成を見据えた学修を深化させる。	
	インディペンデント・スタ ディ I	本科目は、特定指導教員の承認のもと、各自が設定したテーマに基づいて研究を行い、その成果を卒業論文などの具体的な「かたち」に仕上げていく。「インディペンデント・スタディ I」は、一年もしくはそれ以上にわたって継続される長期的な研究プロセスの基礎段階にあたる。	
インディペンデント・スタ ディ II	本科目は、長期的な研究プロセスの後半部分にあたる。具体的には、既に「インディペンデント・スタディ I」で得られたある程度の調査結果を、論文のレベルに引き上げる作業を中心とする。特に大学院を含む研究機関などへの進学を目標とする履修生には、これらのプロセスを経ることによって、能力・気力ともに長期間の研究活動に耐えられる力を涵養する。		

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 学 共 通 教 育 科 目	哲学	本科目では、思想の歴史をさかのぼり、人間や世界に対するさまざまな思想を紹介するとともに、哲学的にものを捉える力、いいかえれば偏見に左右されず論理的にものを考える力を修得する。	
	人権問題論	本科目では、性差別、人種差別、障害者差別、部落差別、民族差別などに加え、児童労働、環境問題と差別、戦争と人権などを取り上げる。さまざまな差別の実態を知り、人権の尊重、差別の克服について考察する。人権という観点から世界を捉え直し、偏見に支配されない公正な思考力と世界観の修得を目指す。	
	グローバル・アース	本科目は、近年、地球規模の環境問題などを受け、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが進められている。しかし、「地球市民」として運命共同体であることの意識はまだ薄く、世界では紛争が後を絶たず、貧富の格差も広がっている。本科目では、地球と多様な生物について幅広く教え、「地球市民」の一員としての理解を深めるとともに、多様な環境問題に積極的に取り組む姿勢を育む。	
	数学	本科目は、数学の楽しさや数理的処理の便利さを実感させ、数学と日常生活の関わりの深さについて理解を深め、日常生活での様々な事象に対して数学的な見方や考え方を適用する力を修得する。小学校における「算数」と中学校以降の「数学」との接続を意識した演習、さらに教員採用やSPIにも対応できるように、確かな数学の基礎力を育む。	
	文学	本科目では、文学作品における基本的な表現技法や文学論を学ぶ。作者、成立、構成、表現、文学的意義など文学作品読解のために必要な基本的知識と技術を身につけ、作品の鑑賞を行う。文学作品を味わい、自分なりの批評ができるようになることを目指す。	
	総合科目A	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目B	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目C	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目D	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目E	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目F	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目G	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 学 共 通 教 育 科 目	総合科目 H	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目 I	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義を行う。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	スポーツ健康科学	本科目では、テニス、バスケットボールなどの実技種目を教材として、積極的に健康づくりに挑戦するとともに、その理論と実践の融合をはかることによって基礎体力を向上させ、身体運動のメカニズムを学ぶ。	
	スペイン語 I	本科目は、スペイン語の入門科目である。スペイン語の発音、語彙、文法、会話表現をバランス良く教え、スペイン語によるコミュニケーション能力の基礎を修得する。動画などを活用し、スペイン語圏の文化についても紹介する。	
	スペイン語 II	本科目は、「スペイン語 I」を修得した学生を対象とした科目である。スペイン語の発音、語彙、文法、会話表現をバランスよく教え、スペイン語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける。動画などを活用し、スペイン語圏の文化についても紹介する。	
	中国語 I	本科目では、中国語特有の声調、及び中国語表音ローマ字（ピンイン文字）を正確に発音できるまで徹底的に訓練する。また、基本的な文型や簡単な挨拶、日常生活でよく使う表現を教え、中国語に慣れ親しませる。動画などを活用し、中国の文化についても紹介する。	
	中国語 II	本科目では、「中国語 I」で修得した知識をもとに、ピンインと声調の正確な発音の復習、単語や会話文の発音をさらに徹底的に訓練する。自己紹介や挨拶の仕方、買い物や旅行、趣味や食事の場面での会話など、日常生活でよく使われる表現を教え、中国語での会話が流暢にできるようになることを目標とする。また、生活習慣や物の考え方、文化などについても触れて親しませる。動画などを活用し、中国の文化についても紹介する。	
	中国語 III	本科目では、「中国語 I」「中国語 II」で修得した中国語の基礎をより確実なものとしつつ、さらに高度な表現を教え、やや複雑な内容の文章を「読み解く」能力を身につけ、自分の意見を中国語で正確に「伝える」能力を修得する。動画などを活用し、中国の文化についても紹介する。	
	フランス語 I	本科目では、発音、語彙、会話表現、文法を、動画なども用いながら、バランスよく教え、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎を修得する。フランス語圏の文化についても紹介する。	
	フランス語 II	本科目では、「フランス語 I」で修得した知識をもとに、さらにフランス語運用能力の向上を目指す。日常生活のさまざまなシチュエーションにおいて要求される定型表現を聞き取り、発話できることを目標とする。文法については、初級文法の学修を修了するとともに、フランス語の全体像を理解する。動画などを活用し、言語の背景となるフランス語圏の文化についても紹介する。	
	ドイツ語 I	本科目は、ドイツ語の正確な発音、文法の初歩、基本的な語彙を教える。平易なドイツ語を理解して、使用できることを目標とするため、実際のイメージが湧く教材を使い、動画などを併用しながら実践的な学修を行う。ドイツ語検定 5 級レベル合格を目標とする。ドイツの文化についても紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 学 共 通 教 育 科 目	ドイツ語Ⅱ	本科目は、「ドイツ語Ⅰ」で学んだことを基本に、過去形・完了形などから接続法まで、初級文法の後半を教える。ドイツ語特有の文構造・語順を修得し、簡単なドイツ語文を理解し運用できる能力を獲得し、ドイツ語検定3・4級合格を目標とする。さらに、動画などを活用し、ドイツの文化についても紹介する。	
	イタリア語Ⅰ	本科目は、「イタリア語Ⅰ・Ⅱ」を通して、その文法構造を理解させ、作文力を養うことで言語運用につなげる。「イタリア語Ⅰ」では、文法の基本事項を教え、基礎力をつけるために数多くの練習問題に取り組む。また基本構文の理解に基づき、修得した文法や語彙を応用し伊作文に取り組むことで、言語運用能力の向上を目指す。動画などを活用し、イタリアの文化についても紹介する。	
	イタリア語Ⅱ	本科目は、「イタリア語Ⅰ・Ⅱ」を通して、その文法構造を理解させ、作文力を養うことで言語運用につなげる。「イタリア語Ⅱ」では、「イタリア語Ⅰ」に引き続き文法事項を教え、数多くの練習問題に取り組ませる。また基本構文の理解に基づき、修得した文法や語彙を応用し伊作文に取り組むことで、言語運用能力の向上を目指す。動画などを活用し、イタリアの文化についても紹介する。	
	ハングルⅠ	本科目は、文字と発音、さらに、助詞や用言の語形変化を体系的に教える。また多様化しつつある韓国語のニーズにこたえるべく、日本語との間にある単語や文、あるいは挨拶表現の異同を教えると同時に、隣国のコミュニケーションスタイル、発想方法等にも触れ、異文化の言語を学ぶ楽しさを知ってもらおう。動画などを活用し、韓国の文化についても紹介する。	
	ハングルⅡ	本科目は、「ハングルⅠ」で修得した知識を背景に、基礎的なコミュニケーション能力を養成する。さらに、日韓の異文化間コミュニケーションの事例等を通して異文化に接するときの心得を身につける。「ハングルⅡ」の修了時点で、ハングル能力試験5級の合格、簡単な自己紹介と日常的な場面でコミュニケーションが出来る能力を修得する。動画などを活用し、韓国の文化についても紹介する。	
	ロシア語	本科目は、文字、発音、文法、語彙等、ロシア語の基本について教える。特に語彙は親しみやすいものに限定し、「狭く、確実に」ロシア語の基礎を固める。また、動画などを活用し、ロシア文化の紹介も実施する。	
	ポルトガル語	本科目では、文字、発音、文法、語彙等、ポルトガル語の基本について教える。動画などを活用し、ポルトガル語圏の文化についての知見も深めながら、コミュニケーション能力を磨くことで運用能力の向上を目指す。	
	デンマーク語	本科目では、デンマーク語の基本的な文法・語彙・熟語の修得、および会話の練習を目的とするが、同時に動画などを活用し、デンマークの文化や習慣などについても紹介する。英語と同じゲルマン語派に属するデンマーク語を学ぶことで英語を見直す機会にもつなげる。	
	スウェーデン語	本科目では、スウェーデン語の発音や文法の基礎を教える。口頭練習を通じてスウェーデン語の発音の基礎を身につけるとともに、簡単なコミュニケーションができる能力を養成する。またスウェーデンの文化や習慣等についても随時紹介する。動画などを活用し、スウェーデンの文化についても紹介する。	
	ハンガリー語	本科目では、発音、語彙、文法、日常会話など、ハンガリー語の初歩を教える。インド・ヨーロッパ語と異なるウラル語の特徴についての理解を促す。動画などを活用し、ハンガリーの文化についても紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 学 共 通 教 育 科 目	フィンランド語	本科目では、文字、発音、文法、語彙等、フィンランド語の基本について教える。また、動画などを活用し、フィンランド文化についての知見も深めながら、コミュニケーション能力を磨くことで運用能力の向上を促す。	
	アラビア語	本科目は、国際社会で求められている実用アラビア語を実用会話の形で教える。文字、発音、文法、語彙、アラビア語の背景にある文化や歴史、さらに、イスラーム世界のみならず、世界におけるアラビア語の重要性について触れる。動画などを活用し、アラビア語圏の文化についても紹介する。	
	ラテン語	本科目は、中世、近代を通してヨーロッパ文明の基礎となってきたラテン語の初歩的な文法を教える。最終的には活用表、辞書を引きながら、簡単なラテン語のテキスト(Caesar, Nepos等)を非常に時間をかけてでも読むことのできる力を養成する。	
	就業体験実習 A	本科目は、本学が認める就業体験によって、会社や仕事の実態を体験的に学修し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	就業体験実習 B	本科目は、本学が認める就業体験によって、会社や仕事の実態を体験的に学修し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	就業体験実習 C	本科目は、本学が認める就業体験によって、会社や仕事の実態を体験的に学修し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	就業体験実習 D	本科目は、本学が認める就業体験によって、会社や仕事の実態を体験的に学修し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	就業体験実習 E	本科目は、本学が認める就業体験によって、会社や仕事の実態を体験的に学修し、職業観や勤労観を育むことを目的とする。その研修時間数が60時間以上120時間未満のもので、実習内容、実習先企業などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	ボランティア実習 A	本科目は、海外での活動を含め、本学が認めるボランティア活動において、社会的な経験を重ねることによって人格形成を養うことを目的とする。その活動時間数が60時間以上120時間未満のものを対象とし、活動内容、ボランティア活動団体などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	ボランティア実習 B	本科目は、海外での活動を含め、本学が認めるボランティア活動において、社会的な経験を重ねることによって人格形成を養うことを目的とする。その活動時間数が60時間以上120時間未満のものを対象とし、活動内容、ボランティア活動団体などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	ボランティア実習 C	本科目は、海外での活動を含め、本学が認めるボランティア活動において、社会的な経験を重ねることによって人格形成を養うことを目的とする。その活動時間数が60時間以上120時間未満のものを対象とし、活動内容、ボランティア活動団体などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	

授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部国際日本学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全 学 共 通 教 育 科 目	ボランティア実習D	本科目は、海外での活動を含め、本学が認めるボランティア活動において、社会的な経験を重ねることによって人格形成を養うことを目的とする。その活動時間数が60時間以上120時間未満のものを対象とし、活動内容、ボランティア活動団体などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	ボランティア実習E	本科目は、海外での活動を含め、本学が認めるボランティア活動において、社会的な経験を重ねることによって人格形成を養うことを目的とする。その活動時間数が60時間以上120時間未満のものを対象とし、活動内容、ボランティア活動団体などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	

学校法人 関西外国語大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
関西外国語大学					関西外国語大学				
		3年次					3年次		
外国語学部					外国語学部				
英米語学科	865	300	4,060		英米語学科	<u>730</u>	<u>200</u>	<u>3,320</u>	定員変更(△135) 3年次編入学定員変更(△100)
スペイン語学科	250	25	1,050		スペイン語学科	250	<u>20</u>	<u>1,040</u>	3年次編入学定員変更(△5)
英語・デジタルコミュニケーション学科	200	0	800		英語・デジタルコミュニケーション学科	200	0	800	
					<u>国際日本学科</u>	<u>200</u>	<u>0</u>	<u>800</u>	学科の設置 (届出)
		3年次					3年次		
英語国際学部					英語国際学部				
英語国際学科	700	100	3,000		英語国際学科	700	<u>75</u>	<u>2,950</u>	3年次編入学定員変更(△25)
		3年次					3年次		
英語キャリア学部				→	英語キャリア学部				
英語キャリア学科	170	—	680		英語キャリア学科	170	—	680	
英語キャリア学科	120	—	480		英語キャリア学科	120	—	480	
英語キャリア学科 小学校教員コース	50	—	200		英語キャリア学科 小学校教員コース	50	—	200	
		3年次					3年次		
国際共生学部					国際共生学部				
国際共生学科	70	30	340		国際共生学科	70	30	340	
計	2,255	455	9,930		計	<u>2,320</u>	<u>325</u>	9,930	
関西外国語大学大学院					関西外国語大学大学院				
外国語学研究所				→	外国語学研究所				
英語学専攻(M)	15	—	30		英語学専攻(M)	15	—	30	
言語文化専攻(M)	20	—	40		言語文化専攻(M)	20	—	40	
英語学専攻(D)	3	—	9		英語学専攻(D)	3	—	9	
言語文化専攻(D)	3	—	9		言語文化専攻(D)	3	—	9	
計	41		88		計	41		88	
関西外国語大学短期大学部					関西外国語大学短期大学部				
英米語学科	800		1,600	→	英米語学科	<u>550</u>		<u>1,100</u>	定員変更(△250)
					<u>未来キャリア英語学科</u>	<u>150</u>		<u>300</u>	学科の設置 (届出)
計	800		1,600		計	<u>700</u>		<u>1,400</u>	